

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	中島 大之
主な担当科目	合奏Ⅰ①②③④/Ⅲ①②③④/Ⅳ①②③④/合奏特別演習①②(月曜5限)(オーケストラ),合奏Ⅰ①②③④/Ⅲ①②③④/Ⅳ①②③④/合奏特別演習①②(月曜6限)(オーケストラ),合奏Ⅰ①②③④/Ⅲ①②③④/Ⅳ①②③④/合奏特別演習①②(木曜2限)(オーケストラ),器楽
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	学生の目線に立ち、他人との比較ではなく、自己の日々向上を目指すことを方向づける。個人レッスンでは基礎練習の意味を理解させ、グローバルな演奏スタイルを学び、ホルンという楽器の特性からも、独奏のみならずオーケストラや室内楽などの合奏に適応できる能力を養う。合奏授業の指導のために、ホルン以外の他の楽器の特性や演奏法に対する理解をさらに深めていく。
2024年の教育に関する自己評価	個人レッスンにおいては、基礎・エチュード・ソロ曲・オーケストラスタディという4本の柱を、個々の特性やモチベーションを鑑みながら、バランス良く実践することができたと考える。合奏授業においては、合奏や分奏において指揮を担当する頻度が多いが、全ての楽器に対しての目配りと、学生の音楽に取り組む姿勢の方向づけにおいて一定の評価がなされたと考える。
2024年のFD活動に関する自己評価	教員経験が増すにつれ、FD活動の重要性を理解しつつ、自己の専門分野との関連性を思案している。全体研修会は、本学の教育や運営の方向性を知る上で大変有意義なものであり、その理解が深まっていると考える。部会の研修会においては、他の教員達とのコミュニケーションをとりつつリーダーシップを取ることができたと考える。
授業改善のために取り入れた研修内容	特になし。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2115 教員名:中島 大之

1)アンケート結果に対する所見

学部、短大、大学院合わせて全履修者 141 名に対し、回答者が 37 名ということで 26%という相変わらず高いとは言えない回答率であるが、従来に比較すると改善の兆しは見られる結果であると言える。以前にも述べたが、アンケートを行う時期が、既に多くの履修生にとってオーケストラ授業への乗り番等が少なくなり、授業への直接参加がされていない時期になっていることが理由の一つにあげられる。毎回全ての履修生が授業に関わっているわけではないというこの授業の特殊性が反映されているのであろう。前回のアンケートでは Q10 において 3.27 という低い満足度の結果であったことに比較すると、今回は全体平均に劣らない満足度を得ていることは、ベテラン指導教員の補充や、授業進行方法の改善などを試みている我々指導教員の大きな励みになると考える。

2)要望への対応・改善方策

同時進行で AB 二つのオーケストラにおいて学生が演奏経験を積み、合奏における技術を学ぶのであるが、全ての学生がそれぞれのレベルに応じた学びができるように、曲目の選定とその乗り番に十分に配慮し、バランスの良い授業を行うことを常に考えていきたい。今回の特徴として、この授業で得られる単位数が少ないという意見が複数見られた。授業支援室と協議しながら、慎重に対応していきたい。

3)今後の課題

セメスター制の影響で秋学期の開始時期がこれまでより遅くなり、オペラ公演の準備が通常授業の期間では賄い切れないため、今年度においては、夏休みを返上して臨時練習を組むという方法をとっている。オペラ公演や定期演奏会、音大オーケストラフェスティバルなどの開催時期も、セメスター制による学事日程変更と共に検討していくべきであろうと考える。

また、そのオペラ公演が隔年となったことで、9月から10月にかけての授業内容を再検討する必要が生じている。昨年度は客員教授を招いての特別演奏会という形をとることができたが、何らかの公演を設定する可能性も含めて検討していきたい。それにより、4月から5月にかけての授業内容にも大きく変更が生じる可能性がある。

以 上